

# 市民と市政をつなぐ 小田原市議会議員 **しのはら弘**



## かけはし

まちづくり  
情報紙

発行者 自宅：〒250-0858 小田原市小台322-5  
篠原 弘 事務所：〒250-0857 小田原市柳新田48 広貴商事ビル1階

TEL：090-1652-3900/FAX：0465-37-4381  
E-mail：shinohara.hiroshi1116@gmail.com

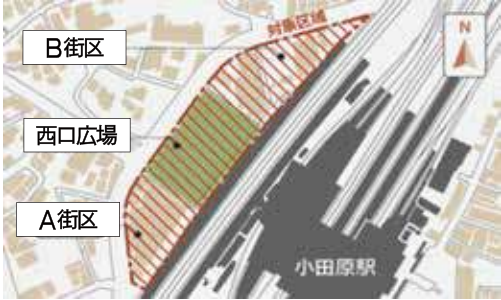
お読みいただける方には発行ごとに郵送（無料）させていただきます。上記の発行者までご連絡ください。

### 小田原駅西口地区基本構想案を公表

小田原駅西口地区では、西口広場の熱海側に隣接するA街区において通称新幹線ビルの建替工事が行われ、東京側に隣接するB街区では、再開発に向けた検討が進められています（左図参照）。また西口広場では、車路を横断する歩行者や一般車の指定場所以外での乗降など、安全性や利便性に課題を抱えていることから、関係権利者で構成される小田原駅西口地区まちづくり協議会と市が連携し、西口広場とB街区の一体的な整備に向け「小田原駅西口地区基本構想案」を作成しました。

### 西口広場と民間再開発を一体的に整備

対象区域 約1・3ヘクタール



対象とする区域は、A街区とB街区、小田原駅西口広場の約1・3ヘクタールになります（上図参照）。

A街区は通称新幹線ビルの建替え工事中



完成イメージ

A街区では、通称新幹線ビルの建替え工事が先行して行われています。

西口広場・B街区は一体的な整備を検討

安全性や利便性の課題を抱える西口広場とB街区との一体的な整備を目指し、建物の重複利用による敷地の有効活用も検討されます。

### 事業の方針

1 小田原駅前の特性を生かした多様な都市機能の充実

▼地下を利用した交通広場(新横浜駅)



2 安全で快適なゆとりある広場空間の再編

▼居心地のよい滞在空間のイメージ



3 駅前につなぐまちづくりの創出

▼ゆとりある歩行空間のイメージ



▼公共交通と一般車の動線分離のイメージ



4 持続可能なまちづくりの推進

▼一時避難場所としての活用イメージ



市民説明会を経て3月に本構想を策定

市では、基本構想案に対する市民の皆さんの意見を伺うため、この1月に2回の市民説明会を開催した上で、3月に本構想を策定します。

令和9年度以降に整備に着手

本構想策定後は、広場の利用実態調査を行った上で、基本的な計画や実施に向けた検討を進め、都市計画決定を経て、令和9年度以降に整備を開始する予定です。

\*文字が多いと感じられましたら、情報のポイントである太い文字と青い文字をお読みください。

小田原市

2050年までに約4万人減少  
65歳以上人口約4割に

地域別将来人口推計

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所は、令和5年推計値として2050年までの「地域別将来推計人口」を公表しました。小田原市の総人口は20年の18万8856人から14万7647人まで減少すると推計しています。この推計は、将来の人口を都道府県別・市区町村別に求めることを目的としたもので、20年の国勢調査を基に、50年までの5年ごと30年間を男女・5歳階級別に推計しています。

市の総人口



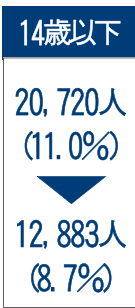
小田原市の「総人口」は、20年の18万8856人に対し、50年には4万

一方、全国は17%、神奈川県は7・7%の減少で、県内の市町村は、山

2020～2050年の神奈川県内市町村別増減率

	市 町	増減率
減少	山北町	51.2%
	真鶴町	50.0
	三浦市	44.7
	箱根町	41.2
	湯河原町	37.6
	清川村	36.5
	中井町	35.5
	南足柄市	32.5
	二宮町	32.3
	松田町	31.7
	横須賀市	29.7
	愛川町	28.3
	秦野市	22.3
	大井町	22.3
	小田原市	21.8
	大磯町	17.5
	厚木市	15.5
	平塚市	15.0
	葉山町	14.6
	伊勢原市	14.3
逗子市	14.1	
綾瀬市	13.0	
寒川町	12.8	
相模原市	10.7	
座間市	10.0	
鎌倉市	9.4	
茅ヶ崎市	6.2	
横浜市	6.4	
大和市	3.5	
海老名市	2.7	
藤沢市	1.0	
開成町	2.5	
川崎市	4.4	
増加		

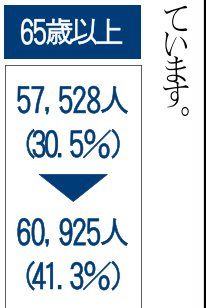
北町の51・2%を筆頭に軒並み減少で、増加する自治体は、開成町と川崎市のみです。(左表参照)



14歳以下の「年少人口」は、総人口に対して20年の11%から50年には8・7%まで減少する見通しで、深刻な少子化が続きます。



15～64歳の「生産年齢人口」は、20年の11万608人から50年には33・2%減の7万3839人まで減少すると推計され



65歳以上の「老年人口」は、構成比が20年の3割から50年に約4割に達する見通しで、高齢化が一層進展する見通しです。

まちづくりに関する市民意識調査を実施

3000名のうち1568名が回答

市では、2030年に目指すまちの姿とその実現に向けた取組を総合的にまとめた第6次小田原市総合計画「2030ロードマップ1・0」(計画期間22年から30年までの9年間)の推進にあたり、広く市民の方々のご意見をお聴きするため、令和3年度と4年度に引き続き、意識調査を実施しました。実施にあたっては、住民基本台帳に記載されている18歳以上の方々の中から、3000名を無作為に抽出しました。主な設問と回答は表のとおりです。

小田原市に対してどんなイメージをもっていますか (3つまで回答)

	回答数	割合
小田原城を中心とした歴史ある城下町	843	54.7%
温暖な気候で住みやすいまち	808	52.4%
豊かな自然(森・里・川・海)に恵まれたまち	710	46.0%

小田原市は住みやすいまちですか (1つだけ回答)

	回答数	割合
とても住みやすい	410	27.0%
ある程度住みやすい	1047	68.8%
住みにくい	58	3.8%

小田原市は、小田原の強みを生かしたまちづくりができていると思いますか (1つだけ回答)

	回答数	割合
とても思う	67	4.4%
ある程度思う	783	51.2%
あまり思わない	596	39.0%
全く思わない	83	5.4%

「ずっと住み続けたい」「当分住み続けたい」を選んだ理由は何ですか。(3つまで回答)

	回答数	割合
自然環境が豊か	583	42.6%
周辺の居住環境が良い	555	40.6%
交通の便が良い	531	38.8%

今後も小田原市に住み続けたいですか (1つだけ回答)

	回答数	割合
ずっと住み続けたい	792	52.4%
当分住み続けたい	575	38.1%
いずれ転居したい	133	8.8%

\*「かけはし」では、公開されていない情報や見えにくい情報を、できるだけ分かりやすくお伝えすることを心がけています。

# トンネルの掘削工事始まる

都市計画  
道路 城山多古線・小田原山北線

県西地域北部と小田原駅や完成後の市新病院へのアクセス道路としての機能が期待される都市計画道路城山多古線は、現在、2025（令和7）年度の開通を目指して整備工事が進められています。久野地区と穴部地区を結ぶトンネルの掘削工事が令和5年10月から始まりました。

## 2025（令和7）年度開通予定



都市計画道路城山多古線は、小田原駅西口（城山中学校入口交差点）を起点に、市役所や市立病院の横を通る路線で、大雄山線と平行に位置する都市計画道路小田原山北線と一体的に整備する計画です。

■城山多古線と小田原山北線を一体的に整備

▼城山多古線

久野地区（山神下交差点）から多古地区までの400mで、そのうち220mがトンネル区間です。

▼小田原山北線

多古から穴部地区（穴部駅入口交差点）までの600m

■用地取得率119割強  
整備率11約3割

平成25年度から用地取得を開始していますが、穴部駅付近の一部用地を残し、取得率は9割強となっています。

整備率は、全体延長1.0kmのうち、穴部側約300mが整備されています。

■もっと便利で災害時  
も安心

トンネルが完成し、城山多古線と小田原山北線が開通すると、県西地域

北部と小田原駅や小田原市立病院新病院へのアクセス機能も格段に向上します。

また、小田原市内の道路ネットワークが強化され、災害時の代替ルートも確保されます。

## 6年ぶりに街かど博物館誕生

# ハチミツ養蜂博物館

## 橋・早川地域への誘客と回遊期待

早川にある「朝翠（あさみどり）養蜂販売」が「ハチミツ養蜂博物館」として、18館目となる街かど博物館に認定され、12月7日にお披露目式が行われました。この認定は、平成29年1月の「かまぼこ歴史館（鱈吉）」以来6年ぶりで、板橋・早川エリアでは4店目の認定になります。板橋・早川エリアの新たな観光スポットとして注目されています。

### ■ハチミツ養蜂博物館

#### ▼早川で80年の歴史

朝翠養蜂販売（株）は、1919（大正8）年に北海道で創業し、養蜂事業を開始。昭和初期にミツバチがよく活動する温暖な気候と、みかんをはじめとする四季折々の花々がある場所を求め、市内

早川に拠点を移し、以来80年にわたり養蜂とほちみつ販売を営んでいます。

#### ▼ハチミツを使ったランチと試食

館内のカフェスペースでは、ハチミツを使ったランチの提供のほか、複数のハチミツを試食して食べ比べ体験も行われています。また販売スペースでは、小田原の養蜂などの歴史を映像と写真で学ぶことができます。

#### ■街かど博物館（18館）は小田原の魅力の宝庫

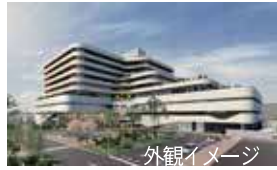
小田原には古くから受け継がれてきた伝統産業がたくさんあります。かまぼこ、漬け物、菓子、ひもの、木工などの地場産業がその代表的なものです。工夫を凝らした展示や店主との会話、体験を通して、小田原の産業にかかわるひと・製品・ものづくりの結びつきを知ってもらいたいとの思い、小田原の魅力を高めようとするのが「街かど博物館」です。

\* 「かけはし」の新聞折り込みは不定期です。発行ごとにお読みいただける方には郵送させていただきます。

## 情報あれこれ

### ■市立病院新病院 起工式を挙行し本格的工事へ

現在、施設や設備が老朽化している小田原市立病院新病院の準備工事が進められている中、2024(令和6)年1月6日、小田原市立病院の新病院の起工式が執り行われました。



外観イメージ

起工式には、市長、議長、小田原医師会長をはじめとする関係者及び設計・施工関係者が参列し、工事の無事を祈念しました。

新病院は26(令和8)年春の開院を目指し、現在、準備工事が進められています。本年1月9日から本格的な工事に着手しました。新病院は株式会社竹中工務店が施工しています。

### ■50歳以上に帯状疱疹ワクチン接種費用を助成

市では、帯状疱疹の発症や重症化を防ぐため、ワクチン接種を希望する50歳以上の市民の方に、令和6年1月以降に行う接種費用の一部について、市独自の助成を行い、経済的負担の軽減を図ります。



#### 【助成額】

2種類のワクチンのうちいずれか1種類について、2024(和6)年1月以降に接種した分につき、接種費用の一部が助成されます。

- ・生ワクチン：4,000円(接種回数1回)
- ・不活化ワクチン：1回につき10,000円(接種回数2回)

### ■小田原動物園が73年の歴史に幕

小田原城址公園内にある小田原動物園は、唯一飼育されていたニホンザル7頭が12月14日に茨城県の東筑波ユートピアに引越したことから、惜しまれつつ閉園となりました。



当時のアジアゾウ「ウメ子」と小田原城天守閣

小田原動物園は、1950年の市制10周年を記念した「こども文化博覧会」に合わせて開園し、アジアゾウのウメ子やライオン、ヒグマなど、最も多い1988(昭和63)年には70種332頭(羽)もの動物が飼育されていました。

しかし、文化庁の指導で、城跡と関わりのない施設の移転を順次進められ、ニホンザルの譲渡を最後に73年にわたる歴史に幕を降ろすことになりました。

### ■市立病院 手術支援ロボットを導入

小田原市立病院では、新病院のQ医療DXの一環として、手術ロボット「ダビンチXi」(右の画像)を導入しました。



「ダビンチXi」は内視鏡下の外科手術で用いられ、より低侵襲(患者さんの体の負担を小さくし、治療後の生活の質を向上させる。)かつ安全で高度な手術が可能となります。

市立病院では、手術に向け専用ベッドの設置など、設備の整備を進めており、1月下旬には泌尿器科領域と婦人科領域で手術が行えるよう準備を進めています。

Q医療DX データとデジタル技術を駆使して診療・治療などを変革し、医療提供上の課題解決を目指すもの。

### ■マイナンバーカードやスマートフォンで図書の貸出

市図書館では、図書の貸し出しをマイナンバーカードをはじめとするデジタル技術を活用し、利用者の希望に応じた使いやすいサービスを提供できるよう利用環境の拡充を進めています。



この2月からマイナンバーカードやスマートフォンなどに表示される図書館利用者カードのバーコードで図書の貸し出しなどができるようになるほか、図書館専用のLINEアカウントが開設され、図書館から、図書に関連する情報やイベント開催情報を利用者に直接配信されるようになります。

また、自動貸出機も新たに中央図書館に2台増設されます。

### ■清閑亭「食」で小田原ならではの文化を発信

明治時代に活躍した黒田長成(ながしげ)侯爵の別邸として、1906年に建てられた清閑亭は、「食」を通じて「小田原ならではの文化」を発信しながら、持続可能な形で建物を維持保全していくことを目的に、



「小田原別邸料理 清閑亭」として生まれ変わります。

◆開業予定日：2024(令和6)年3月下旬

◆提供料理：季節、地場産品、伝統を取り入れた幅広い価格帯のコース料理、小田原産の柑橘を使用した喫茶メニューほか

◆一般開放：清閑亭2階及び庭園を常時開放

(施設管理上、従業員への声掛けが必要です。)